

## I でん粉の概況

### 1 海外の動向

#### (1) でん粉原料作物概況

2009/10 年度の米国のとうもろこし生産量は、7～9月の天候が生育に非常に適したものであったことから、前年度から10億ブッシェル(8.2%)増加し130億9,200万ブッシェル(USDA、22年3月現在の推計値)と史上最高となった。

2009/10年度のタイのキャッサバ生産量は、同国で初めて発生した害虫コナカイガラムシによって大きな被害がもたらされ、前年度の3,009万トンから808万トン減少し、2,201万トン(前年度比26.0%減)と大きく落ち込んだ。この減産によって需給はひっ迫し、キャッサバおよびタピオカでん粉の価格上昇といった事態を招くこととなった。

#### (2) とうもろこしの国際価格の推移

コーンスターチの原料であるとうもろこしについて、シカゴ先物相場(期近)の2010年4月から2011年3月の動きを見ると、年度当初は1ブッシェル当たり3ドル～4ドル台で推移していたが、夏以降はロシアの穀物禁輸措置により上昇に転じた。10月には米国産とうもろこしの単収が下方修正されたことなどから需給ひっ迫の見通しが強まり、相場は5ドルを超える水準で推移するようになった。2011年に入ってから相場は上昇を続け、一時7ドルを突破するものの、3月上旬には世界第1位のとうもろこし輸入国である日本で発生した東日本大震災等の影響で一時的に下落した。その後は、3月末にUSDAが公表した在庫数量が大方の予想を覆す低水準であったことから、再度7ドル近くまで上昇した。

### 2 国内の動向

#### (1) でん粉概況

平成21年産の国内産いもでん粉の生産量は、ばれいしょでん粉については作付面積の減少に加え、7月の低温と多雨の影響によりばれいしょが小玉傾向となったことから、前年度から2万5,000トン減少して19万8,000トン(前年度比11.2%減)となった。一方、かんしょでん粉についてはかんしょ生育期の天候に恵まれて生育が良好だったことから、生産量は前年度から6,000トン増加して5万2,000トン(前年度比13.0%増)となった。

平成22年4月から平成23年3月のコーンスターチ用とうもろこしの輸入量は、327万7,000トンとなった。でん粉の輸入量はコーンスターチが1,600トン、ばれいしょでん粉が1万5,000トン、マニオカでん粉が10万6,000トン、サゴでん粉が1万8,000トン、その他が1,000トンであった。また、化工でん粉の輸入量はでん粉誘導体が41万8,000トン、デキストリンが2万6,000トン、膠着剤及び仕上げ剤などが210トンであった。

### 3 国内産いもでん粉の生産動向

#### (1) ばれいしょでん粉

##### ア ばれいしょの生産

平成 22 年産ばれいしょの作付面積は前年産比 300ha 減の 5 万 4,100ha、作付農家戸数は前年産比 500 戸減の 1 万 4,400 戸、1 戸当たりの作付面積は前年産比 0.11ha 増の 3.76ha であった。

1 ha 当たりのばれいしょの平均収量は 32.4 トン（前年産 34.8 トン）、総収量は 175 万 3,000 トン（前年産 189 万 3,000 トン）と、いずれも前年産に比べ減産となった。このうち、でん粉原料用ばれいしょは 74 万 5,000 トン（前年産 86 万 3,000 トン）と前年産比 11 万 8,000 トンの減少となった。

##### イ ばれいしょの生育概況

北海道のばれいしょは 7 月以降の高温と多雨の影響により、着いも数が少なく小玉傾向となった。この結果、単収、収量ともに前年産よりも減少した。

##### ウ ばれいしょでん粉の生産

平成 22 年産のばれいしょでん粉生産量は 16 万 3,000 トン（前年産 19 万 6,000 トン）と前年産比 3 万 3,000 トンの減少となった。歩留りは 21.9%と前年並みであった。

#### (2) かんしょでん粉

##### ア かんしょの生産

平成 22 年産のかんしょの作付面積は前年産比 120ha 減の 1 万 7,340ha、作付農家戸数は前年産比 1,300 戸減の 1 万 8,100 戸、1 戸当たりの作付面積は前年産比 0.06ha 増の 0.96ha であった。

1 ha 当たりのかんしょの平均収量は 24.5 トン（前年産 29.1 トン）、総収量は 42 万 4,700 トン（前年産 50 万 8,700 トン）と、いずれも前年産に比べて増産となった。このうち、でん粉原料用かんしょは 15 万 200 トン（前年産 16 万 840 トン）と、前年産比 1 万 8,200 トンの減産となった。

##### イ かんしょの生育概況

でん粉原料用かんしょの主産地の鹿児島では、4～5 月の低温による初期生育の遅れ、6～7 月の長雨・豪雨による生育不良、7～8 月の高夜温による肥大遅れ等が複合的に発生し、単収、収量ともに前年産よりも減少した。

##### ウ かんしょでん粉の生産

平成 22 年産のかんしょでん粉生産量は 4 万 4,612 トン（前年産 5 万 1,606 トン）と前年産比 6,994 トンの減少となった。歩留りは 30.4%とほぼ前年並みであった。